

平成27年度

# 入学試験国語問題

## 注

- 解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 問題用紙は持ち出さないこと。
- 字数制限のあるものは、原則として句読点、記号も一字に数えます（指示のあるものは除く）。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

レオナルド・ダ・ヴィンチという人がいる。皆さんの誰もが知っているあのモナリザの作者である。画家でもあり、彫刻家でもあり、また詩人でもあり、思想家でもあり、あるいは科学者でもあった。僕がこのレオナルド・ダ・ヴィンチの名を知ったのは今から六十年程前で太平洋戦争が終わったばかりの小学校二年生の時だった。

ある時先生が黒板にレオナルド・ダ・ヴィンチと大きく書き、こんな話をして下さった。ダ・ヴィンチという人は、僕たちの未来についていろんなことを語っている。近未来の社会をいろいろと思い描いている。その中で、ダ・ヴィンチは「人間がA地点からB地点に移動するための乗り物は馬が一番良い」と言ったという。たしかにダ・ヴィンチの時代には、多くの人は歩いて旅をすることしかできなかった。馬の背に乗って荒野や砂<sup>A</sup>バクを進んでいくというのは大変なスピードだったろうと想像できる。

a、ダ・ヴィンチともあろうう人が車社会や空飛ぶ飛行機を考えなかったはずがない。でもなぜか、ダ・ヴィンチは馬が一番と言う。「さすがのダ・ヴィンチも昔の人だなあ、やっぱり人間は<sup>①</sup>その時代から逃れることができないんだなあ」と小学生の僕は思った。ところが心のどこかに残ったダ・ヴィンチの一言がある。「なぜならばそれが人間にとって一番幸せなスピードであるからだ」。その一言がずっと僕の記憶の中に残っていた。

それから十年、二十年経って僕は大人になった。今の時代はどこへ行くにしても、車や電車、飛行機を使う。便利で快適になり、スピードアップした。時間の無駄遣いもなくなり、効率の良い時代になった。でも、その時いつも僕は思う。僕たちは人間にとつて一番幸せなスピードで過ごしているのだろうか。ダ・ヴィンチは馬のスピードが一番幸せだと言った。だとしたら、僕たちは不幸な暮らしをしているのではないか。そう考えてみると、たしかにそういう部分がある。僕は自分を不幸にしないために、飛行機に乗って時間を節約した分をいかに豊かに使うかということを考える。

b、映画を作るには撮影後にフィルムを<sup>B</sup>へん集する。その作業は一ヶ月も二ヶ月も、映画によつては半年も一年もかかる。フィルムをワンカットずつ、カッターで切つて、それを削<sup>けず</sup>り、糊<sup>のり</sup>をつけて貼りあわせていく。失敗したら、それを剥<sup>は</sup>がしてま

た貼りあわせていく。その後、少しだけ便利になって、テープスプライサーというもので接着をするようになったので、時間がだいぶ節約できるようになった。とはいえ、やはりこれも手仕事である。

それが現代ではコンピュータの時代である。コンピュータ<sup>C</sup>の機械の中にフィルムを放り込むと、映像という情報になり、ボタンをポンと押すだけで、カットがつながっていく。失敗したら、またポンと押し直すだけでよい。だからかつての時代の三分の一ほどの時間で仕事が進むようになった。それはとても素晴らしいことである。文明の利器<sup>りき</sup>のおかげとはこういうことだ。

けれども三分の一の時間で済むようになったのだから、残りの三分の二の時間は自分の好きな本を読んだり、音楽を聴いたり、絵を描いたり、あるいは親しい友達と会ったり、旅をしたり、そのような豊かな幸福な時間に使えるのなら素晴らしいのだが、なかなかそうはいかない。

て幸福を失っていく。人間がロボットに、更にいえば科学の奴隷<sup>どれい</sup>になっていくわけである。これではせつかく人々に夢を語る映画を作るといふ仕事<sup>ア</sup>が、逆に人間を不幸にする仕事になってしまふ。

④ ダ・ヴィンチが言った幸福<sup>イ</sup>というものについてそこから考えることができる。かつて人は馬に乗って旅をした。たしかに時間がかかる。不便も多い。けれども、その旅の中で、人と出会って話をしたり、いろいろな場所<sup>ア</sup>でいろんな食べ物を食べたり、あるいは日が照ったり、雨に降られたり、暗い夜があったり、星の輝きを見たり、風に吹かれたり、そういういろいろなことが旅をする人の人生の中に、心の中にどれだけ豊かな幸福<sup>イ</sup>感をもたらしてくれただろうかということ<sup>ウ</sup>を思い起こさなければならぬ。ダ・ヴィンチの言葉は現代にこそ意味を持つのだと僕は今思う。ダ・ヴィンチは彼にとつての遙かな未来である今のこの時代を思いやっていたのではないか。未来とは地球の明日を生きる人たちの時代であるということ<sup>D</sup>を考えれば、芸術の力は未来の人間の幸福を予<sup>D</sup>ソクする力、そしてそれを予<sup>D</sup>ソクしたがゆえに、どんどん便利快適ということに流されていく、僕たちの暮らしをセイ御する、そういう力にもなる。そこに芸術というものの素晴らしさがあるのではないかと思う。

では便利で快適エな科学文明というものはどういうものかと考えていくと、いつでもより新しく、より効率がよく、僕たちの手や足に代わって便利で快適な暮らしを作ってくれるものである。文明の力とはこのように素晴らしいものである。では文明に対して文化とはどういうものかというのと、困ったことに文化と文明は全く反対の性格を持つてるのである。つまり、いつでもより古く、より深く、従って効率はより悪く、不便や我慢がいっぱいある。でもそれを知恵と工夫で乗り越えていくから人間は賢くもなる、心が豊かにもなる。これが文化である。この文明と文化が常に共存しているということが大切だ。便利であるということの素晴らしさと、不便であるということの素晴らしさ。効率が良いということの幸福と、効率が悪いということの幸福が共にある。これが大事なことである。効率が良い方がいいではないか、古いものよりも新しいものの方がいいではないか、と僕たちは考えるかもしれないが、実はそれが間違いなのだ。

例えば、僕たち人間という存在を考えてみよう。人間の面白いところは「前」と「後ろ」があるところである。目がついている方、鼻がついている方、口がついている方が前である。耳は横についているが、なぜか耳たぶがついていて、前からの音だけを聴く。人間は丸い世界の中に生きている生き物のはずなのに、前しか見ることのできない、前を向いてしか喋ることのできない、前からくる匂いしか嗅ぐことができない、前からくる音しか聞くことができない存在である。全能の神からすれば⑤いぶん不便な形に人間を作られたものである。後ろには排泄のための器官しかない。不思議だ。でもそれにはきつと意味がある。

その意味を考えてみると、僕たちは前を向いた世界の半分としか向き合えず、その世界の半分について一所懸命、目や鼻や耳や口の力を用いて観察したり理解したりする。そして理解をすれば、この世界に対する優しさを身につけることができる。だが、後ろにも目や鼻や口があったら、もっと優しくなれるかもしれないというのは間違いである。語りかけられない後ろ、聞こえない後ろ、それは観察することはできないが想像することはできる。どんなものがあるんだろう、どういう声を発しているのだろう、どういいう匂いを発しているのだろうと、僕たちは一所懸命想像する。その想像することがまた優しさを生む。

映画の中では俳優は鼻や口や耳を一所懸命使ってエン技Eをする。しかし、女優は後ろ姿でエン技をする。目も鼻も口も何もない

後ろ姿で。後ろ姿を見るとなぜか僕たちはその人の優しさや悲しさや喜び、願いや夢を見ることができ。後ろ姿からはその人物の心を感じることができ。僕たちの想像力がそれを捉えるのである。

心とは何か。どんなに目を見開いても見ることはできない。どんなに語りかけても心は答えてくれない。しかし、目を閉じると心が見える。心の声が聞こえてくる。心とは観察力ではなく、想像力の世界にあるのだ。

人間に前と後ろがあるように、世界にも昼と夜とが同時にある。人間がこの地球上で幸せに生きていくことを考えたら、一日中昼の方がよく見えるし、何でも情報になるし、便利で快適なはずである。それなのになぜ、一日の半分は何にも見えない、不慣れた怖い夜なのだろうか。

人間は一日の半分の昼間、一所懸命世界を見つめ、観察し、理解する。しかし一日の半分は、見えない闇の中で思いやる。想像する。そして優しさを身につける。世界に対して本当の優しさを得ることができ。そのように僕たちは神様から作られてきたわけである。僕たちには、後ろ姿や闇が大事なのだ。けれども見えないということは不便である。d 恐ろしい。誤解も生まれる。そこで、見えない闇の中で何かを見ようという好奇心によって、見えないものが見えるようになった。

今は、夜でさえも明るい。ビデオやカメラによって見えないはずの後ろの世界が見えるようになった。現代の科学文明の力である。今の東京大学が帝国大学と呼ばれていた時代の入学試験で、「神様があなたの体にもう一つ目をつけて下さるとすれば、あなたはどこにほしいですか」という問題が出されたそうだ。多くの学生は「背中にほしい」と答えた。たしかに背中に目があれば、世界をまるごと見ることができ。

これが僕たちの願望だったのである。その力によって科学文明を発達させてきた。だから、ビデオやカメラや情報機器は、神様が与えてくれた小指の先の目だといえるのではないか。それを使うことで、世界をまるごと情報として捉え、観察し、理解してきた。しかしそれによって幸福になったかといえ、どうもそうではないようである。

なぜか。背中の後ろの見えない部分を、夜を、世界の半分の闇を失ったからである。飛行機や新幹線を得て便利になったけれども、馬の背で旅をする幸福感を失ったのである。ここに僕たちが生きる難しさがある。行き過ぎた科学文明は凶器となり、人間を

c

、後ろ姿か

滅ぼしてしまおう。その行き過ぎた科学文明を幸福に使う力、文明が凶器になる部分を緩やかに穏やかにする力こそがIIなのである。

II とは本来、暗いもの、古いもの、遅いもの、科学の技術の高さのかわりに深みのあるもの、便利になるかわりにゆつくりと考える力のことである。芸術・美術とは、科学文明の力に対して、II の力の強さや素晴らしさを学び、そこから世界とまるごと共存できる人間の力を得ることである。

この百年は科学文明の世紀だった。あるいは映像の世紀だった。すべてが情報化され、闇が昼になった。そして同時に、戦争の世紀でもあった。自由に夢を見て、その夢を自由に表現しようとする欲望が、人の夢を奪い、自分の夢だけを実現しようとして戦争を生んだ。これからの僕たちは自分の夢よりも人の夢を大切にし、便利さだけではなく、不便さも大切にし、我慢の力を尊び、そして真の人間の幸福を考えていくようにならないといけない。僕たちは、「人間がA地点からB地点に移動するには馬が一番ですよ」と言ったレオナルド・ダ・ヴィンチの言葉を、もう一度考え直さなければならぬと思う。

『中学生の教科書——今ここにいるということ 今僕たちは本当に幸せか』 大林宣彦

- ※ レオナルド・ダ・ヴィンチ：一五〇一―一六世紀イタリアの芸術家。絵画、彫刻に優れていた。
- ※ モナリザ：レオナルド・ダヴィンチが描いた油彩画で上半身の身が描かれた女性の肖像画。

問一 次の文章を本文中のどの箇所に入れるのが適当ですか。その箇所の直後の七字を答えなさい。

しかし正解は小指の先だったのである。小指の先に目があれば、後ろだけでなく、例えばポケットの中でも耳の穴の中でも覗き込むことができる。世界をすべて情報化することができる。

問二 傍線部A～Eのカタカナ部を漢字で表記したとき、同じ漢字を使うものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 砂|バク

ア バク|然とした思い。  
イ 他人を束|バク|する。  
ウ 真相をバク|露する。  
エ 爆弾がバク|発する。

B ヘン|集

ア 大きな声でヘン|事をする。  
イ 予定をヘン|更する。  
ウ 三角形の底ヘン|。  
エ 十両ヘン|成の車両。

C セイ|御

ア セイ|意ある対応をする。  
イ 学校のセイ|服を着る。  
ウ 商品をセイ|造する。  
エ 熱いセイ|援を送る。

D 予|ソク

ア 規ソク|を守る。  
イ 身体ソク|定をする。  
ウ ソク|度を落として運転する。  
エ ソク|面から見る。

E エン|技

ア エン|足で山に登る。  
イ 体育祭をエン|期する。  
ウ 講エン|会に出席する。  
エ 動物エン|に行く。

問三 

a
---

d
---

 に入る適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ語は二度使わないこと。)

ア 例えば      イ つまり      ウ しかし      エ すると      オ そして

問四 二重傍線部ア、エの語で形容動詞でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

問五 傍線部①「その時代から逃れることができない」はどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア それぞれの時代にふさわしい快適な乗り物を発明するということ。
- イ 未来を予ソクできず、その時代の考え方ができないということ。
- ウ 人間はどうしても過去の出来事にとらわれてしまうということ。
- エ 便利で快適なものこそが最も幸福だと感じられるということ。

問六 傍線部②「不幸な暮らし」を比喩的に表現した語を本文中から五字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部③「節約」の対義語を漢字で答えなさい。



問八

I

に次のア～エの各文を文脈の通るように並べ替え、記号で答えなさい。

ア でも、そのために人間の体も三倍消費されていく。

イ 僕の友達のヘン集マンは、ヘン集が三分の一の時間で済むようになったために、仕事が三倍に増えてしまったという。

ウ つまり経済効率が良いということだ。

エ 仕事が三倍に増えるということ自体は、商品を作るという面からは良いことなのかもしれない。

問九

傍線部④「ダ・ヴィンチが言った幸福」はどのように考える時間を大切にすることですか。解答欄に合うように本文中から十七字で抜き出して答えなさい。

問十

傍線部⑤「それにはきつと意味がある」はどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間が世界をまるごと見えるようになり、すべてを情報化することは都合がよいということ。

イ 語りかけられない後ろ、聞こえない後ろは、観察することはできないが、想像することで優しさが生れるということ。

ウ 不便や効率が悪い方が知恵と工夫で乗り越えていくので、その分人間は賢くなり、進化の過程で必要だということ。

エ 視覚、聴覚、嗅覚など人間が生存に必要な要素は前にだけ存在するため、前向きに生きていくことが幸せだということ。

問十一

傍線部⑥「それ」は何を指していますか。本文中から五字程度で抜き出して答えなさい。

問十二 傍線部⑦「馬の背で旅をする幸福感を失った」とありますが、この幸福感を取り戻すために私たちはどのような心構えで生きていくべきだと述べていますか。それが示されている一文の最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

問十三

II

に入る適当な語を本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問十四 筆者の考えと合致するものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア レオナルド・ダ・ヴィンチのような古い時代の人の考え方は古すぎて、科学文明が発達し、情報化が進んだ現在の時代には通用しない。

イ 古いものより新しいものに囲まれている生活は効率が良く便利で、我々に快適な生活を提供してくれるため、どんどん新しいものを開発すべきだ。

ウ 効率が良く便利なものは人間を不幸にするので、我々は新しく便利なものは排除して、古いものだけで生活をするべきだ。  
エ 馬に乗って旅をすることは、時間がかかって不便だが、いろいろなことを経験することができ、幸福感をもたらしてくれる。

オ 人間は前だけでなく、後ろにも目や鼻や口などの器官があれば、もっと周りのことを理解することができ、便利で幸せになれる。

【二】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

後徳大寺大臣※ごとくだいじのおとどの、寢殿とびに鶯うぐいすをさせじとて縄なはを張られたりけるを、西行※が見て、「鶯Aのゐたらんは、何かは苦しかるべき。此この殿このの御心みごころ① さばかりにこそ」とて、その後は参らざりけると聞き侍るに、綾小路宮※あやのこうのみやのおはします小坂殿※こさかのの棟むねに、いっそや縄なはを引かれたりしかば、かのためし思ひ出でられ侍りしに、誠まことや、「烏からすのむれみて池いけの蛙かえるをとりければ、御覧Cじ悲かなしませたまひてなん」と人の語りしこそ、さてはいみじくこそと覚えしか。徳大寺にもいかなるゆゑか侍りけん。D

〔徒然草 第十段〕

- ※ 後徳大寺大臣：左大臣藤原実定。
- ※ 西行：平安末期の歌人。
- ※ 何かは苦しかるべき…：なんのさしつかえがあろうか、あるはずはない。
- ※ 綾小路宮：龜山天皇の皇子、性恵法親王のこと。京都綾小路の妙法院に住んだ。
- ※ 小坂殿：綾小路の東端にあった妙法院の別称。
- ※ さてはいみじくこそ…：それならば誠に立派なことである。

問一 傍線部 A～D の古語をひらがなで現代仮名遣いに改めなさい。

問一 傍線部①「さばかり」の解釈として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア それほどのあわれみ深い心

イ それほどのせまい心

ウ それほどの行き届いた心

エ それほどの苦しい心

問三 傍線部②「参らざりける」・③「引かれたりしか」・⑤「とりけれ」・⑥「語りし」・⑧「覚えしか」の主語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 後徳大寺大臣

イ 鳥

ウ 綾小路宮

エ 西行

オ 作者

カ (ある) 人

問四 傍線部④「かのためし」は本文中のどの部分を指していますか。その部分を二十七字で探し、最初と最後の五字を抜き出して答えなさい。

問五 傍線部⑦「さてはいみじくこそ」はどのようなことに対してそう思ったのですか。それを説明した次の文の  
② ・ ④ にあてはまる本文中の語をそれぞれ指定された字数で抜き出して答えなさい。また  
③ ① は適当な語(現代語)を指定された字数で答えなさい。

① 一字 が ② 三字 をとっているのを見て、綾小路の宮が ③ 五字 だと思って、 ④ 一字 を引いたこと。

問六 この作品と同じ時代に成立した作品を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 枕草子
- イ 源氏物語
- ウ 万葉集
- エ 方丈記
- オ 奥の細道

【二】 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

人類がいつことわざを使い始めたのか、というのは興味のある問題です。学者のなかには、人類がことばを使い始めたところから、ことわざを使っていた、と推測している人もいます。しかし、確かな証拠があるのは、文字が発明されてからのことになります。

現在知られている世界最古のことわざ集は、五千年以上前のものです。ティグリス・ユーフラテス河流域にさかえたメソポタミアのシュメール人が、ねんど板にくさび形文字で書いたのです。内容は、「真実とともに歩んできた者は命を生む」のような、おもに教訓的なものです。

また、三千数百年前には、バビロン第一王朝をきずいたハムラビ王が定めた『ハムラビ法典』に有名な「にはを、にはを」ということばがのっています。このことばは旧約聖書にも見られ、世界中に広まりました。人のをつぶしたら自分もをつぶされ、人のを折れば自分もを折られる、というきびしいルールです。

また、三千年前にユダヤの王ソロモンのことばが、「ソロモンの知恵」として伝承され、やはり旧約聖書にもおさめられています。

日本では、奈良時代のことわざや、鎌倉時代のことわざ集が残っています。しかし、それらは、現在のことわざとはかなりようすがちがいます。

室町時代よりも時代がくだと、現在わたしたちが使っていることわざもたくさん見られます。人々はどのようにことわざを使っていたのでしょうか。

たとえば、**狂言**は話※きょうげんしことばなので、ことわざがたくさん使われています。「**縄**」なひなひという狂言を例にとってみましょう。主人公の太郎冠者かじやは、かけ事の好きなご主人に、使いに使われます。

「よその人は五度に一度はお勝ちやるが、こちらの頼たのうだ人のやうに『今日も負けた』『また負けた』、あのやうに、負けても負け

でも何がおもしろいことぢや知らぬ。あれが世話に言ふ『I』と申すものでござる。」

「こちの頼うだ人」とは「わたしが頼みとする人」、つまり「わたしのご主人」という意味です。「世話」とは「世間でいいならわされていふことば」、つまり「ことわざ」のことです。

江戸時代に書かれた『毛吹草』という俳句の手引き書には、約七百のことわざが集めてあります。おそらく、その半分以上のことわざは、いまでも使われています。そのごく一部をぬき出しておきます。

善は急げ

知らぬが仏

鬼の a にも涙

鱚の c も信心から

朱に交われば赤くなる

これらのことわざは、いいまわしも現在とまったく同じですが、なかには、多少いいまわしが変化したものもあります。

同じ穴のキツネ [同じ穴のムジナ]

仏つくりて眼まなこを入れず [仏つくって魂入れず]

背中に d はかえられない

正月の遊びとして長いあいだ親しまれてきた「いろはカルタ」は、『毛吹草』よりも少しあとの時代に生まれました。

「いろはカルタ」には、よく知られたものが二種類あります。さきにつくられたのは、京都を中心とする関西地方のものです。

このカルタは(い)「一寸先はやみ」で始まります。

その後、江戸(いまの東京)でもつくられました。こちらは(い)「e も歩けば棒に当たる」で始まります。使われて

いることわざはそれぞれことなりますが、どちらも四十八まいの読み札と絵札とがセットになっています。

( 中略 )

また、日本で古くから使われていることわざのなかには、外国から伝えられたものもたくさんまじっています。

たとえば、つぎのことわざは、中国から伝わってきたものです。

① 覆水盆ひくすいに返らず

三十六計逃げるにしかず

A f

穴に入らずんば

f

子を得ず

A 竜頭蛇尾

B 因果応報

日本古来の「やまとことば」とはことなり、音読みをする「漢語」を使っているのです。中国から来たものだと気づきます。それでも、日本古来のことわざだと錯覚さつかくしそうなほどに、日本語になじんだものもあります。

西洋から伝わったことわざもたくさんあります。明治時代に、文明開化の波にのって、どっと入ってきたのです。

沈黙は金

一石二

g

② 時は金なり

ペンCは剣よりも強し

ローマは一日にしてならず

③ 二兎とを追うものは一兎とをも得ず

テレビ時代劇で、ちよんまげすがたの庄屋※しやうやが「わらにもすがる思いで、お願いに参上しました」といったりします。ところが、



「わらにもすがる思い」というのは、「II 者はわらをもつかむ」という英語のことわざに由来します。だから、江戸時代にはなかったいまわしですが、テレビを見ているわたしたちは、変だとは思いません。それほどに、わたしたちの言語生活に根をおろしているのです。

（『ことわざの秘密』武田勝昭）

※ 狂言…日本の伝統芸能の一つ。室町時代に成立。中世庶民の日常・説話を題材にした対話を中心としたせりふ劇。

※ 庄屋…江戸時代に郡代、代官のもとで村政を担当した村の長。

問一 a g に入る体の一部を表す語、または動物を表す語をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

問二 I に入ることわざとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア もとの木阿弥 イ 焼け石に水 ウ 下手の横好き エ 猿も木から落ちる

問三 傍線部①～③のことわざと同じ意味のものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 「覆水盆に返らず」

- ア 雨降って地固まる
- イ 後の祭り
- ウ 上手の手から水が漏る
- エ 船頭多くして船山に登る

② 「時は金なり」

- ア 勝負は時の運
- イ 地獄の沙汰も金次第
- ウ 年貢の納め時
- エ 一寸の光陰の軽んずべからず

③ 「二兎を追うものは一兎をも得ず」

- ア 虻蜂取らず
- イ 捕らぬ狸の皮算用
- ウ 二階から目薬
- エ 窮鼠猫をかむ

問四 傍線部A・Bの意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 「竜頭蛇尾」

- ア 普段仲の悪い者同士が、同じ場所や同じ境遇にいること。
- イ 初めは勢いが良いが終わりの方になると振るわなくなること。
- ウ 弱い者が強く見せかけようとして威勢がよくなること。
- エ 外見は似ているが、中身が全く異なっていること。

B 「因果応報」

- ア 原因を追究せず結果ばかりにこだわること。
- イ 原因と結果を調べて広く知らせること。
- ウ 行動が良くても、悪い結果になること。
- エ 行為の善悪に応じてその報いがあること。

問五 傍線部Cのように数字を用いたことわざはよく使われますが、次のことわざの空欄に入る適切な漢数字を答えなさい。

ア 早起きは  文の得

イ 親の  光り

ウ  里の道も一歩から      エ 三つ子の魂  まで

問六  II  に入る最も適当な動詞をひらがなで答えなさい。